「平和のために」

２０２２年2月２４日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。突然、これまでの生活が奪われてしまったウクライナの方々の恐怖と悲しみは計り知れないものだと思います。罪の無い人々がなぜ戦争という残酷な争いで命を落とさなければならないのでしょうか。利益を得たいがためだけに、なぜ多くの命が奪われなければいけないのでしょうか。たとえ戦争に勝ったとしても、数え切れない程の人々が犠牲となって得るものは、土地と支配と権力だけです。確かにそれも大切なのかもしれません。でも、命に対立するものではないと思います。

私は去年、長崎で実際に被爆された方のお話を聞きました。そこで聞いたことは、今でも鮮明に覚えています。多くの人々が目の前で苦しみ死んでいく姿をみたというその方のお話は、とても悲惨で残酷で恐ろしいものでした。当時体験した人だけが知る原子爆弾の恐ろしさは、言葉では言い表せられないものだと思います。だからこそ日本は唯一の被爆国として、戦争は絶対ダメだと主張していかなければなりません。毎日学校に行くことができて、友達に会えて、おいしいものが食べられて、家族みんなで一緒に暮らせる。私たちにとっては当たり前のことかもしれませんが、戦地には命からがら生き延びた人たちや生きるために必死な人たちがたくさんいます。

日に日に被害が大きくなっていくウクライナ。ニュースで聞く彼らの暗く重い言葉がこの戦争を物語っているようでした。軍人だけでなく市民までもが大きな犠牲となり、病院や避難所までもが攻撃されているウクライナには、人々が安心して安全に暮らせる場所などあるのでしょうか。今この瞬間にも彼らは恐怖におびえ、苦しみ、必死に生き抜こうとしているのです。一日でも早くこの戦争を終わらせるために私たちにできることは何なのでしょうか。実際に戦地に赴くことはできなくても、何かできることはあるはずです。実際、戦争の影響でさまざまな物価の高騰が起こっています。石油や小麦など、どれも私たちの生活に欠かせない物です。だから、「節約」をすることもできることの１つになると思います。もう１つは、後世に伝えていくことです。戦争が起こっているのは自分たちの国だけではありませんが、今私たちが生きているこの時代に戦争が起こっているという事に変わりはありません。少しでも多くの人が後世に伝えることで、戦争は二度としてはいけないものだと残していくことができると思います。過去を変えることはできなくても、未来を変えることはできます。それを変えていくのは私たちです。こうしたことを改めて考え直し、戦争とはどういうものなのか、平和とはどうすれば守り育てることができるのか、今一度考えてみることが大切だと私は思います。

一人一人の力は微力だけど、力が集結すれば偉大で強大な力へと変えられるはずです。唯一の被爆国として、戦争を絶対起こさせない、許さないという強い意志を持ち、行動で表す。私たちにできることは小さなことかもしれませんが、ますは自分にできる身近なことから始め、つないでいくことが大事だと思います。争いのない平和な世界になる事を祈りつつ、私も今を生きる一人の人間としてその責任を果たしていきたいです。

「令和４年度高原町青少年健全育成町民大会」本校生徒の意見発表より